

オフィスの窓から

神谷繁



本コラムを執筆した4月以降の約半年間を締めくくりに当たり、ハッピーリタイアについて考えてみたいと思います。ハッピーリタイアと聞く、多くの方が豊かな老後資金を確保し、悠々自適の引退生活に入ることを想像することでしょう。さて、皆さんはどうお考えでしょうか。

「自営業に引退はない」とか「生涯現役」という考えの方も多いでしょう。逆に50歳前後や60〜70歳を目安にハッ

ハッピーリタイア願う

ピーリタイアを考える経営者も少なくありません。

ただ、ハッピーリタイアをリアルに考えると、準備すべきことはお金の問題だけではなく、経営している会社や事業所の引き継ぎ、老後の住まい、生きがいや趣味、地域や人とのつながりなど備えることは山ほどあります。その中から中小企業診断士として、経営に関することを中心にお話していきたいと思います。

私は事業承継支援やM&A(第三者承継)業務に携わっている関係で、50歳以上の経営者とお話をする機会が多く、皆さんの引退したい時期を聞くと65〜70歳と答える方が半数以上を占めます。

また、自営業では体が動くうちは働き続けたいと考える方が多いようです。中には、早めに老後資金を蓄え、趣味を仕事にしたり、もうからなくてよいからボランティア

的な仕事をしたりして、心ゆとりをもって働くことを望んでいる方もいます。

いずれにしても、現役を終わった後の第2ステージでは資金が必要となってきます。そこで、事業承継やM&Aで老後資金を考える方が増えています。例えば自分が持っている会社を次世代へ事業承継し、役員退職金をもらったり、株式や営業権を第三者へ売却したりするのがです。

そこで、自分が持っている会社や事業は、いくら価値があるのか、また、買ってくれる人はいるのかといった心配も出てくるでしょう。この点、商工会など、事業承継やM&Aの相談を受けてくれる専門の支援機関が身近にあるので、まずは相談し、事前準備に取り掛かってはいかでしょうか。多くの経営者のハッピーリタイアを願っています。(真中小企業診断士協会会長)